

小野市備蓄目標計画の概要

1 計画の目的

本計画は、今後発生が予想される大規模な地震災害や風水害をはじめとする大規模災害に備え、食料や生活用品、防災資機材を計画的に備蓄した上で、「自助」・「共助」を基本とした市民による家庭内備蓄を推進し、市民の防災に対する意識を「無関心から関心へ」変えていくこと。

また、限られた財源の中で効果的な備蓄体制を構築するため、主に初動対応期に必要な物資等を中心に備蓄を進めていくことや災害対応に従事する市職員の備蓄計画について検討し、策定する。

なお、本計画は、今後5年ごとに見直しの検討を行うこととし、新たな課題や強化していくべき課題が生じた場合などには、その都度検討を加え、必要に応じ計画の修正を行うこととする。

2 被害想定

本市において最大の被害発生が想定される「山崎断層帯主部南東部・草谷断層（市内における最大震度7）」とする。

想定地震	避難者数				避難所生活者数		
	建物被害による避難者数	1日後	4日後	1か月後	10時間後	100時間後 (約4日後)	1000時間後 (約1か月後)
山崎断層帯 (主部南東部・草谷断層)地震	29,423人 (※1)	20,700人 (※2)	10,419人 (※2)	5,001人 (※2)	5,382人 (※2)	1,562人 (※2)	151人 (※2)
山崎断層帯 (主部南東部)地震	27,802人 (※1)	19,528人	9,829人	4,718人	5,077人	1,474人	142人

・上記の表は、兵庫県が平成21年～22年に実施した兵庫県地震被害想定に基づく避難者数を示したものの。

(※1) 建物被害（全壊・焼失・半壊）による総避難者数

(※2) 兵庫県のデータがないため、上記の想定地震の内、数値データが公表されている「建物被害による避難者数」を比較し、算出したもの。

3 備蓄目標計画の基本的な考え方

(1) 備蓄目標計画の位置づけ

「小野市地域防災計画」では、市の目指す防災体制として、「市、住民・自主防災組織、事業者・団体の役割」を明記しており、災害に立ち向かうには地域の総力を結集することが必要不可欠であるという基本的な認識に立っている。

本計画においても同様の認識に立ち、自らの身の安全は自ら守ることが防災の基本であり、平常時から災害に備え、各家庭において最低3日間分、可能な限り1週間分以上を目標として食料、飲料水、生活必需品等の備蓄を行う必要がある。

しかし、震災時には、家屋の倒壊、焼失等により、多数の避難者、負傷者の発生が予想されるため、自助・共助を基本としながらも、市としても食料、生活必需品及び災害応急対策に必要な資機材等を備蓄する必要がある、これを計画的に推進するため、本計画を策定する。

なお、本計画は「小野市地域防災計画」に基づき策定するもので、小野市地域防災計画の下位計画として位置付ける。

①小野市地域防災計画における備蓄の考え方

災害発生から3日間は、平時のルートによる供給や外部からの支援が困難になる可能性があることから、この間の物資等の確保対策を講じることとしており、市民が各家庭や職場で、平時から最低3日分、可能な限り1週間分の食料、飲料水、生活必要物資を備蓄するよう、自主防災組織や自治会等を通じて啓発するとともに、事業所等における物資の確保についても啓発することとしている。また、2の「被害想定」を基準に、食料、生活物資等の備蓄目標を定め、市は2日分の備蓄に努めるものとしている。

	市民による備蓄	行政による備蓄	
		市	県
コミュニティ域・学区レベル	1人3日分※ (現物備蓄)	被災者の1日分相当量 (現物備蓄)	
市域レベル		被災者の1日分相当量 (現物又は流通在庫備蓄)	
広域レベル			被災者の1日分相当量 (現物又は流通在庫備蓄)
合計	3日分※	2日分	1日分

※可能な限り1週間分程度の備えをめざす。

(注) 矢印は、不足が生じた場合、カバーする手順を示す。

(2) 備蓄目標計画の基礎となる指標(対象者数)

2の「被害想定」に基づき、備蓄を行う上での対象者数を次のとおり設定する。

区分	対象者数
避難所生活者 (10時間後)	5,382人
災害対策要員	272人

※災害対策要員は、「小野市災害時業務継続計画」の職員参集予測人数(地震発生からの時間経過12時間後：272人)に基づく。

4 備蓄目標数量(算定基礎となる年代等)

備蓄物資支給対象者5,382人に配布する食料や生活必需品等の備蓄目標を年代や性別を考慮し、算定する。

算定基礎となる年代等

年齢区分	人数	割合	対象者	備考
3歳から79歳	42,874	89.2%	4,801	アルファ化米
1歳、2歳及び80歳以上	4,892	10.2%	549	白粥(アルファ化米)
0歳	314	0.7%	38	粉ミルク
0歳から3歳	1,380	2.9%	156	紙おむつ(乳幼児用)
40歳以上の要介護認定者のうち要介護度3以上	906	1.9%	102	紙おむつ(大人用)
10歳から55歳女性	12,402	25.8%	1,389	生理用品

※小野市人口：48,080人。人数は、令和3年1月31日現在「小野市年齢別人口調べ」等より作成

5 公的備蓄物資整備（購入）目標

分類	品目	目標数量	現在数量	充足率 (現在)	5年目	充足率 (5年目)	10年目	充足率 (10年目)
食料	アルファ化米	11,234食	10,450食	93.0%	11,250食	100.1%	11,250食	100.1%
	アルファ化米(白粥)	2,196食	0	0.0%	2,250食	102.5%	2,250食	102.5%
	パン類	9,602食	0	0.0%	10,000食	104.1%	10,000食	104.1%
	粉ミルク	760本	0	0.0%	760本	100.0%	760本	100.0%
飲料水	飲料水	69,480本	18,048本	26.0%	33,048本	47.6%	33,048本	47.6%
生活 必需品	毛布	5,654枚	2,243枚	39.7%	3,993枚	70.6%	5,654枚	100.0%
	紙おむつ(乳児用)	2,496枚	0	0.0%	2,496枚	100.0%	2,496枚	100.0%
	紙おむつ(大人用)	1,224枚	0	0.0%	1,224枚	100.0%	1,224枚	100.0%
	生理用品	22,224枚	0	0.0%	22,500枚	101.2%	22,500枚	101.2%
	哺乳瓶	76本	0	0.0%	76本	100.0%	76本	100.0%
	フェイスタオル	10,764枚	1,208枚	11.2%	6,208枚	57.7%	10,764枚	100.0%
	ゴミ袋(45L)	10,764枚	0	0.0%	10,764枚	100.0%	10,764枚	100.0%
	トイレトーパー	718ロール	0	0.0%	718ロール	100.0%	718ロール	100.0%
	ティッシュペーパー	673箱	0	0.0%	675箱	100.3%	675箱	100.3%
トイレ 関係	携帯トイレ	51,240枚	3,300枚	6.4%	13,300枚	26.0%	23,300枚	45.5%
	マンホールトイレ便座セット	30基	20基	66.7%	30基	100.0%	30基	100.0%
	マンホールトイレ(テント)	20帳	10帳	50.0%	20帳	100.0%	20帳	100.0%
	マンホールトイレ(パーテーション)	10基	10基	100.0%	10基	100.0%	10基	100.0%
	簡易トイレ便座セット	36基	23基	63.9%	36基	100.0%	36基	100.0%
	自動ラップ式トイレ	18基	5基	27.8%	13基	72.2%	18基	100.0%
	簡易・自動ラップ式トイレ(テント)	54帳	23帳	42.6%	39帳	72.2%	54帳	100.0%
避難所 資機材	発電機	30台	22台	73.3%	27台	90.0%	30台	100.0%
	投光器	90台	52台	57.8%	72台	80.0%	90台	100.0%
	バルーン式投光器	60台	31台	51.7%	45台	75.0%	60台	100.0%
	ガソリン携行缶(20L用)	20個	14個	70.0%	20個	100.0%	20個	100.0%
	防滴コードリール(30m)	60個	34個	56.7%	49個	81.7%	60個	100.0%
	懐中電灯	150個	150個	100.0%	150個	100.0%	150個	100.0%
	CDラジカセ	30台	25台	83.3%	30台	100.0%	30台	100.0%
	救急箱	30個	1個	3.3%	30個	100.0%	30個	100.0%
	簡易ベッド	150台	69台	46.0%	110台	73.3%	150台	100.0%
	寝袋	60個	20個	33.3%	40個	66.7%	60個	100.0%
	段ボールベッド	150台	123台	82.0%	138台	92.0%	150台	100.0%
	段ボール間仕切り	300枚	165枚	55.0%	240枚	80.0%	300枚	100.0%
	ワンタッチパーテーション	300帳	235帳	78.3%	270帳	90.0%	300帳	100.0%
	ワンタッチパーテーション(屋根)	300帳	125帳	41.7%	185帳	61.7%	300帳	100.0%